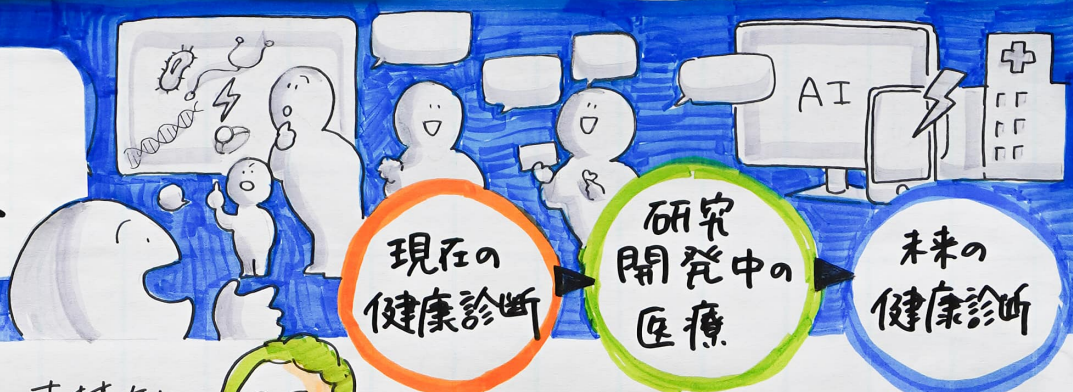


みんなの声で未来をつくる!

2050年の医療のすがた



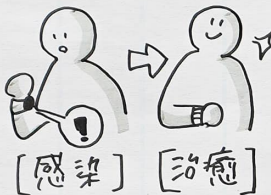
● インプット

高橋先生

千葉大学大学院 (医学部) 教授、AI知識
医学特任助教授

病気の超早期発見治療 & 免疫環境を調整

感染の脅威から
解放される社会へ!



吉村先生

名古屋大学大学院 理学部数学科・
免疫学・感染症学・微生物学・免疫学

データ取得の技術

データから未来予測テクノロジー

健康診断に行かなくても
病気が検出できる

高負担

低負担



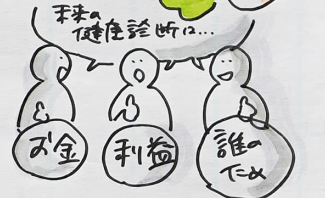
神里先生

国立成育医療センター
医学部 研究開発部

未来の健康診断

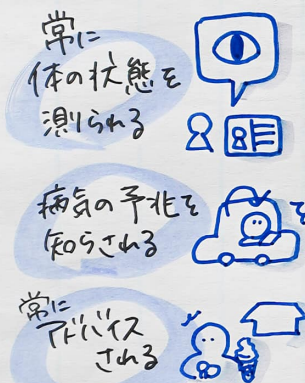
情報
BIGDATA
どう知った?
どうする?
心配は?

ひらひらひら
考えることが大切



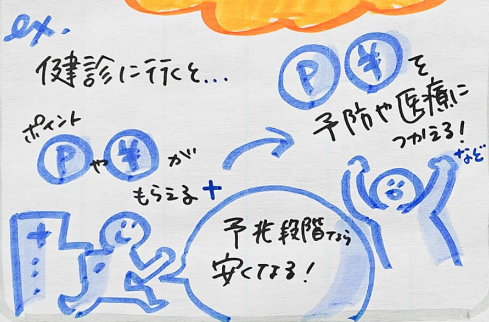
● グループセッション [未来の健康診断について]

<ここから考えてみる>



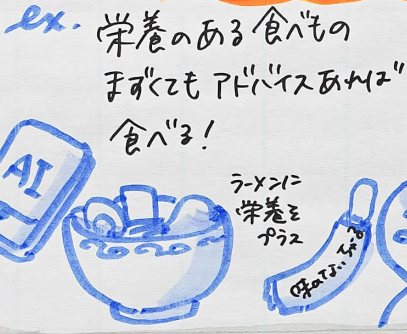
グループ
セッション ①

予兆段階で
病院に行きやす!



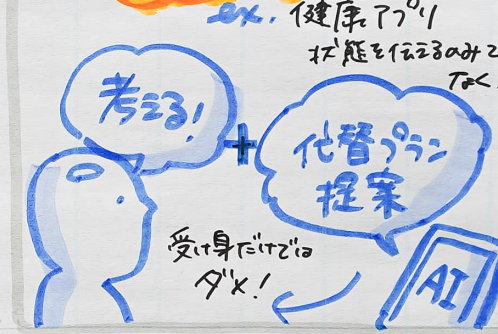
グループ
セッション ②

治る病気は
予兆で教えられる!



グループ
セッション ③

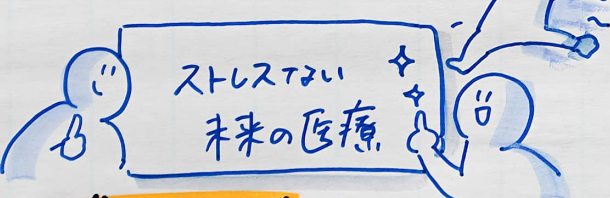
情報・AI
インセンティブが欲しい!



● ディスカッション [みんなの意見は?]

■ 予兆だけでも病院に行きやす!

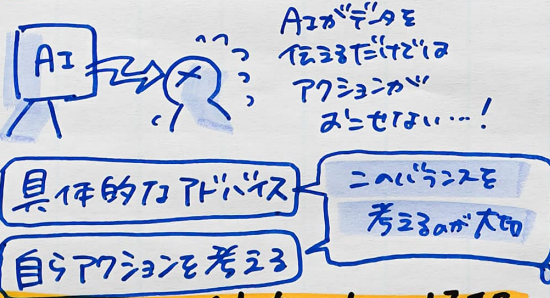
測らるる感がない
測らるる方がよい...



■ データありきでも
自分で決めた!



■ データ過多による精神的負担は
少ない方がいい!



■ 身近なシーンでの健康に関する情報の
"見える化"を!



● まとめ (感想)

- ① 生の声が聞けて
よかった!
 - ② 「情報」の使い方が
重要。新しい技術も
使ってもらって主体に考えていこう
 - ③ 「ユース」や「研究者」の
対話の機会が大事
- 多くのひとにとって
ふたより未来の医療を
考えていきましょう!

グラフィックデザイナー ぶえがこう!